

研究課題	秋冬期における一、二年生草花の展示栽培（スカビオサ）
背景・ねらい	新潟市では晩秋から早春にかけて出荷できる切花品目が少ないため、秋冬期における無加温ハウスで栽培が可能な品目・作型等を検討し、切花出荷期の拡大を図る。
担当者	山口 次郎, 渡辺 智之, 船木 武人, 渡邊 一彦
研究期間	2020～（1年目）

1 目的

秋冬期に無加温ハウスで栽培が可能であり、市場での需要が高い品目を展示栽培し、当該期に球根以外で種苗費が安く換金可能な草花類（秋播き二年草）の新品目導入のための資料とすることを目的とする。

2 方法

(1) 供試品目：スカビオサ（5品種、図1）

クイズシリーズ（アトロパ・プリア種）：サーモンピンク，ダークブルー，スノーメイデン <福花園>
 ファーマシリーズ（コーカシカ種）：ティープブルー，柯仆 <ミヨシ>

(2) 試験区の構成・規模

各品種各 28 株（14 株×2 反復）

(3) 耕種概要

ア 試験圃場：鉄骨ハウス 4

イ 播種：7月17日

ウ 催芽処理：播種時期が高温期で発芽適温以上となるため、15℃の冷蔵庫で発芽が揃うまで庫内で育苗し（11日間）、その後遮光ハウスで育苗。

エ 定植：8月7日

オ 栽植様式：畝幅 80 cm，条間 40 cm，株間 30 cm，2 条植え（一部摘芯）

カ 施肥：基肥（kg/10 a）N-P₂O₅-K₂O= 10-10-10
 追肥 生育の状況を見ながら適宜施用。

キ 電照：定植直後より日長延長（日没後～PM10:00）

ク 保温：11月上旬から保温開始（二重カーテンにて）

ケ 摘芯：抽苔開始を確認して、適宜摘芯。

(4) 調査項目

発芽率（一部品種）、採花日、採花本数、切花長、茎径、節数、側枝数、花径、切花重
 ※年内採花を想定しているため、12月21日で調査終了

3 結果の概要（図2）

(1) 冷蔵庫内での催芽処理時の暗黒化での発芽および育苗時の遮光が影響し、幼苗が徒長気味であった。さらに、クイズシリーズは定植後の高温対策で行ったミスト散布と遮光が影響し、徒長が特に顕著であった。

(2) 発芽は全ての品種で良好であった。ファーマシリーズは生育が遅く、ロゼットに入る株が多かった。花芽分化した株もあったものの12月21日の調査終了時までには開花には至らなかったため、形質調査は行わなかった。クイズシリーズは10月上旬から採花開始となったが、調査終了時点で未開花の枝もあり、採花時期はバラついた。一株当たりの採花本数はピンチを行ったクイズシリーズの全品種で5本前後となった。

形質は、スノーメイデンが切花長 86.5 cm，節数 4.6 節，花蕾数 4.9 個と最もボリュームがあり、サーモンピンクが 76 cm，節数 3.6 節，花蕾数 3.5 個とボリュームが最小となった。

クイズシリーズは、定植時の苗徒長がその後の生育にも影響し、つる性植物のような形状となり、花茎が曲がり、市場価値の低いものが多くなった（図1）。

4 まとめ

本試験では、本来秋播きで春咲きのスカビオサを夏播き秋冬咲きの作型で栽培した。

厳暑期の播種・定植栽培であるため、種子冷蔵や育苗時の遮光、定植後のミスト散布などの処理を行った。

ファーマーシリーズは、年内の採花ができず本作型には適さないと思われる。

クイズシリーズは11月中に平均採花日がきており年内採花が可能であり、切花長などのポリウムについても問題なかった。しかし、花茎の湾曲が著しく、市場価値が低い仕上がりとなった。

植栽は、ニゲラ同様に密植・無摘芯の一本切りが向いていると思われる。

本試験では、播種時の高温対策として、冷蔵庫内(15℃)で育苗を行ったが、発芽揃いが悪く、早期に発芽した個体は暗黒化で徒長し、その後の生育にも大きく影響した。そのため、本作型に適した育苗方法の検討が必要と考えられる。

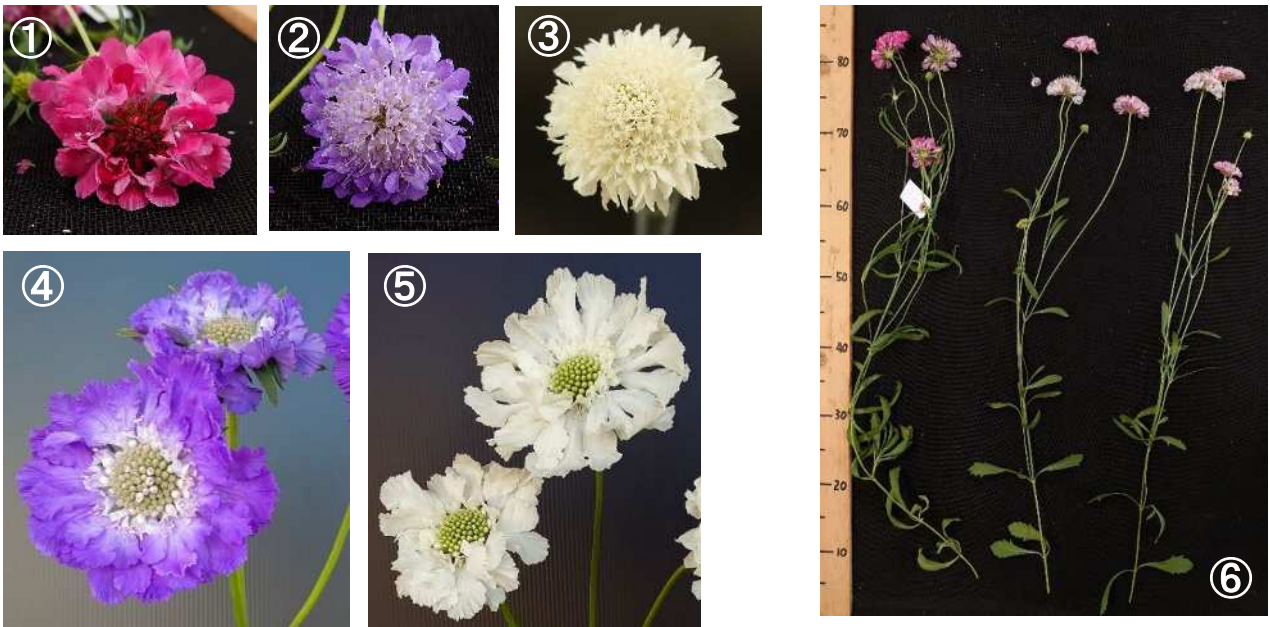


図1 品種別花写真 (①～③: クイズシリーズ: ①サモンピンク, ②ダークブルー, ③スノーマイデン
④～⑤ファーマーシリーズ: ④ディープブルー, ⑤ホワイト) 及び⑥切花姿 (クイズサモンピンク)

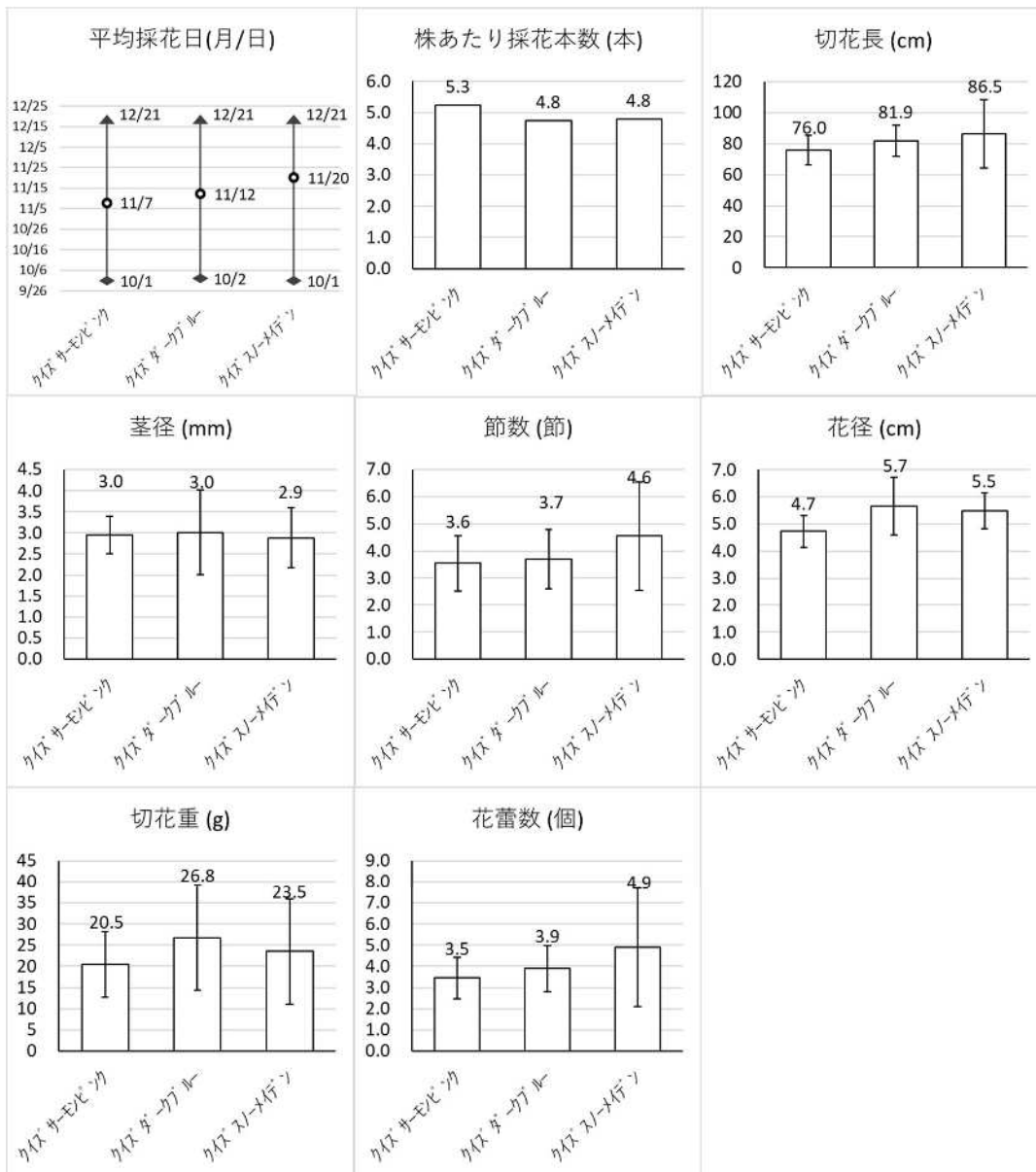


図2 スカビオサ切花結果 (切花長, 茎径, 節数, 花径, 切花重, 花蕾数: n = 10)